

## かんのがわ 神納川



十津川沿いの大字川津から  
支流（神納川）を遡って行くと、  
内野、山天、三浦、五百瀬、杉清という  
五大字に出合います。  
神納川区は村内で最も人口が少ない区です。

神納川区の盆踊りは旧小学校の体育館で 8 月 13 日に実施されます。踊りの数は 10 曲弱ですが、参加者の数は約 100 人で、比較的若い人が多い印象です。音頭は長老の森理さんから若手の岡田亥早夫さんへと引き継がれました。

神納川の踊りの特徴はテンポがゆったりしていることです。小辺路を通過して西川区の人との交流が過去には盛んであり、西川の踊りと似ている部分があります。

昔は 8 月 13 日に山天、14 日に五百瀬、15 日に内野で盆踊りが開催されていましたが、徐々に開催されなくなっていきました。現音頭取りの岡田さんが大学と就職で約 8 年、神納川を離れて戻ったところ、過疎化への危機感を感じ、なんとかしなくてはという思いで盆踊りを 2008 年に復活させました。

ところが、復活はしたものの自己満足をみんなに押し付けているのではないかと思い、一旦頓挫。そこで、踊り自体を任意参加とし、神納川盆踊り実行委員会を設置。目標を持って自然体で再開したら、踊りを楽しみたい人たちが徐々に増え、定着したのです。

音頭取りの岡田さんは復活の体験について、温故知新が大切だと思っています。変化する時代のなかで、大事なものを引き継ぎ、またそれを通じて成長していく。

「神納川はいい所 老若男女が手をにぎり 古き良き日を過去とせず 今日もせっせと汗流す」

新たに作られた神納川の盆踊りの一文句です。

この気持ちが今の神納川の盆踊りにつながっているのだと思います。現在は、ベテランの先輩の方々からの音頭と踊りの継承が大切な活動になっています。（中川）





神納川

撮影：十津川村教育委員会





神納川

撮影：神納川農山村交流体験協議会





神納川

撮影：佐古金一